

## 芦屋市立美術博物館運営基本方針

## 4 今後の課題

- (1) 来館者の増加
  - 話題性のある魅力的な展覧会・ワークショップ等の開催
  - 来館者のリピーターを増やすための方法や手段を検討する。
- (2) 交通アクセスの改善
  - 案内表示等の周辺整備を進めるため、関係機関との連携を図る。
- (3) 広報活動の拡充
  - 年齢層ごとに適した広報手段を検討する。
  - 新たな広報手段を積極的に見出す。
- (4) 学校教育との連携
  - 市内の小中学校から児童・生徒が美術博物館を訪れるよう学校教育との連携を図る。
  - 美術博物館の学芸員が市内の小・中学校へ出向く出前講座等を検討する。
  - 小・中学校の教員を対象にした研修等の実施を検討する。
- (5) 学芸員の調査・研究の充実と成果の発信
  - 芦屋ゆかりの美術や歴史・文化について積極的に調査研究する。
  - 調査研究の成果を、美術博物館だより、研究紀要などで公表する。
- (6) ミュージアムショップの充実
  - 来館者のニーズに応えるよう商品の充実を図る。
- (7) 高齢者・障がい者への取り組み
  - 高齢者及び障がい者に配慮した展示を検討し、高齢者及び障がい者が来館しやすい取り組みを進める。
- (8) ボランティアの育成
  - 美術博物館で活動するボランティアの育成を図る。
- (9) 施設の有効活用
  - コンサートや講演会など、多目的な施設としての有効活用を検討する。
- (10) 外国人への対応
  - 外国人の入館者も見学できるよう、解説の多言語化などを進める。
  - インターネット等を活用し、世界に向けて情報を発信する。
- (11) 文化ゾーンの連携
  - 文化ゾーンを構成する3館（美術博物館・谷崎潤一郎記念館・図書館）の一体感が形成される仕組みをつくる。
  - 隣接する谷崎潤一郎記念館及び図書館と積極的に連携して事業を展開し、各館の入館者数が増加する等、相乗的な効果を生み出す。
  - 災害時等に文化ゾーンの三館が連携して対応できるよう、避難の体制や方法等を整える。